

「豊川架橋」の調査へ

東三河環状線 渡会氏への答弁で知事

会 議 質 問
代 表 質 問



渡会克明氏

県議会の9月定例会は25日再開し、自民党の原欣伸(犬山市)と民主党の安藤敏毅(清須・北名古屋)

屋・西春日井市)、公明党の渡会克明(豊橋市)の3氏が代表質問を行った。渡会氏への答弁で大村秀章知事は東三河環状線の「豊川架橋」の調査を行う方針を明らかにした。

3氏とも「今後の財政運営」を取り上げた。大村知事は「義務的経費の増加で厳しいものがあるが、産業・経済の活性化に努め、税源確保に努力していく。また(国に)地方財源の充実を働き掛けていく」と答えて理解を求めた。

渡会氏は「東三河の道路インフラの整備はまだまだ不十分」と東三河地域の幹線道路整備への取り組みを聞いた。大村知事は国道23号と151号バイパスの整備促進とともに、「豊川を渡る東三河環状線の長大橋

の検討」を明らかにしながら、「(道路インフラの整備で)東三河の総合力アップを進めていく」と積極姿勢を示した。

このほか、代表質問では「国家戦略特区の推進」が取り上げられ、大村知事は「(企業を募集して)県有料道路の民間移管を来年10月までに進めるほか、無人自動車の走行やドローンの規制緩和などについても検討して、実現させていきたい」と述べた。

また、「中京大都市圏の形成」について大村知事は「中部5県の広域計画策定が進んでいる。リニア中央新幹線の開業で5000万人の大交流圏ができる。これをチャンスと捉え、名古屋駅のスーパーターミナル化を図っていく」と、大都市圏形成に積極姿勢を見せた。

また、「中京大都市圏の形成」について大村知事は「中部5県の広域計画策定が進んでいる。リニア中央新幹線の開業で5000万人の大交流圏ができる。これをチャンスと捉え、名古屋駅のスーパーターミナル化を図っていく」と、大都市圏形成に積極姿勢を見せた。

また、「中京大都市圏の形成」について大村知事は「中部5県の広域計画策定が進んでいる。リニア中央新幹線の開業で5000万人の大交流圏ができる。これをチャンスと捉え、名古屋駅のスーパーターミナル化を図っていく」と、大都市圏形成に積極姿勢を見せた。

また、「中京大都市圏の形成」について大村知事は「中部5県の広域計画策定が進んでいる。リニア中央新幹線の開業で5000万人の大交流圏ができる。これをチャンスと捉え、名古屋駅のスーパーターミナル化を図っていく」と、大都市圏形成に積極姿勢を見せた。

県議会は週明けの28日から3日間の一般質問に入る。東三河選出議員では大嶽理恵(民主、豊川市)と下奥奈歩(共産、豊橋市)の2氏が登壇する予定。(本多亮)